3G-5

コンピュータリテラシー科目における「メールに関するマナー」の活用法と意識調査

黒崎　茂樹†

成城大学共通教育研究センター†

1. はじめに

平成 20 年 3 月に『中学校学習指導要領』が，また平成 21 年 3 月に『高等学校学習指導要領』が，文部科学省より告示された[1,2]．『高等学校学習指導要領』の告示により，教科「情報」については，2013 年度から現行の普通教科「情報」(科目「情報 A」「情報 B」「情報 C」)から，共通教科「情報」(科目「社会と情報」「情報の科学」)に再編される．この教科・科目の再編により，「情報活用の実践力及び情報モラルに関する内容が共通に，かつ，より実践的に行われるように改善が図られている」[3]．そのため，2016 年度に入学してくる大学生から，共通教科「情報」の学習によって，情報活用の実践力および情報モラルを習得していることが期待される．

前節で述べた中等教育における情報教育を踏まえたうえで，大学のコンピュータリテラシー科目において，2016 年度以降の大学新入生に学習項目として何を教授するのかについての検討が必要であろう．

2. 繰り返し学習項目としての「メールに関するマナー」の活用法

本研究の前提として，中等教育における情報教育の現状を勘案すると，特に「電子メール」に係わる情報活用の実践力が均質に習得されていることを大学新入生に期待するのは難しいであろうと認識している．この前提を踏まえ，本研究では，大学のコンピュータリテラシー科目において，「電子メール」の送受信・転送などの実習を含んだ，繰り返し学習項目としての「メールに関するマナー」の導入を提案する．

具体的には，コンピュータリテラシー科目の個別ソフトウェアの学習において，中核的な教材として学習項目「メールに関するマナー」を一貫して活用することを提案する．

3. 実践内容

2011 年度成城大学開講全学共通教育のリテラシー科目「コンピュータ・リテラシーA1」の 2 クラス(受講生 61 名，63 名)にて，本研究の提案である，繰り返し学習項目としての「メールに関するマナー」の導入を行った．

授業は「講義＋パソコンを用いた実習」形式で行っており，その内容を(1)に示す．中核的な教材として学習項目「メールに関するマナー」を活用したのは，(1b)から(1f)までと(1h)の 6 つの学習内容である．

(1) a. 情報の整理方法とパソコンの基本概念
b. データとファイルの基本概念
c. インターネットの活用方法
d. インターネットの危険性と情報倫理
e. ワープロソフトを用いた文書作成手法
f. プレゼンテーションソフトを用いた資料作成方法とプレゼンテーションの方法
g. 表計算ソフトを用いたデータの集計方法
h. 複数ソフトウェアの同時利用方法

学習項目「メールに関するマナー」の具体的な素材として，(2)の日本経済新聞社発行の『日経プラスワン』の記事を活用した．(2)は，20～50 歳代の会社員・経営者にメールのコツを 30 項目の中から 5 つまで挙げてもらった「ポイントランキング」となっている．

(2) 「ビジネスメール，好感度を上げるには:1 行を短く，読みやすく(何でもランキング)」『日経プラスワン』2011 年 05 月 21 日，1 面．

受講生は(2)の記事を，成城大学図書館の学内データベース「日経テレコン 21」[4]で情報検索する．(2)の新聞記事を熟読した後，ソフトウェア「メモ帳」を使用し，(3)の課題を行う．(3)は「メールに関するマナー」について新たに獲得した知識が何であるか，またその理由を受講生に意識化・形式知化させる課題である．

(3) 件の新聞記事を読んで，自分が初めて知った内容や，誤解していた内容や，頭の整理ができた項目などを 3 つ選ぶ．また，その

Practice of Email Etiquette Education in a Computer Literacy Course and Survey of Student Attitudes toward Email Etiquette
†Shigeki KUROSAKI
†Center for General Education, Seijo University

[1] http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/chu/__icsFiles/afieldfile/2010/12/16/121504.pdf
[2] http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2011/03/30/1304427_002.pdf
[3] http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2010/12/28/1282000_11.pdf
[4] http://t21.nikkei.co.jp/

Copyright ©2012 Information Processing Society of Japan.
All Rights Reserved.

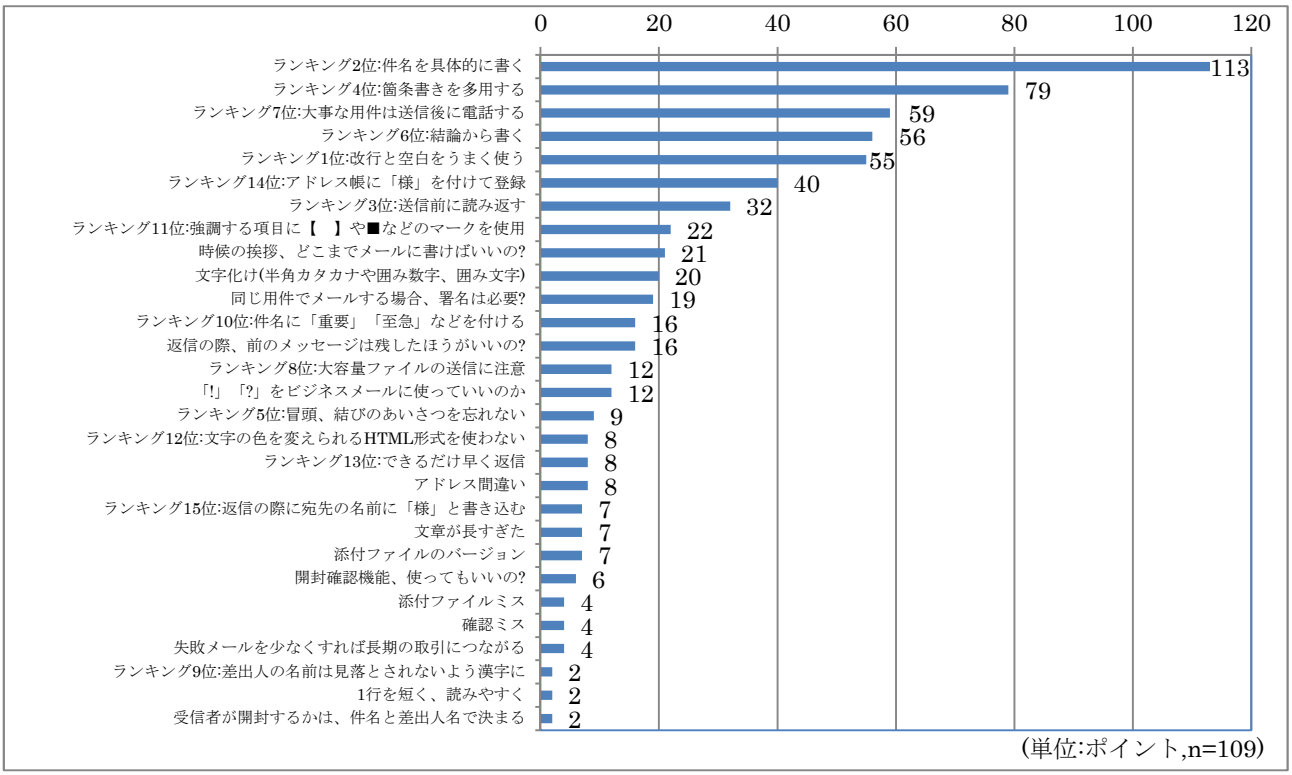

図 1：ビジネスメールにおける留意事項のランキング(29 項目)

理由を項目ごとに箇条書きの形式で，50 字程度にまとめる．

次に，(3)の課題で作成したテキストファイルを，担当講師に電子メールの添付ファイルとして送信する．(1e)の授業では Word 2010 を活用し，ビジネス文書に類似した形式で，「新聞記事「ビジネスメール」についてのレポート」を纏める．続く(1f)の授業では，PowerPoint 2010 を利用し，これまでの授業課題を纏めた 6 枚のスライドを作成する．この課題は配布資料 1 枚の形式での印刷物と，電子メールで提出する．

上記で説明した繰り返し学習項目としての「メールに関するマナー」のコンピュータリテラシー科目への導入は，一受講生と担当講師の双方向授業に限定されない．受講生から提出された「電子メールのマナーについてのレポート」を秘匿化したうえで受講生全員に公開し，新たに「ベストレポート」を受講生に報告してもらう．よって，この教授法は「全員参加型」の特性を有する．

4. 「メールに関するマナー」に対する意識調査

図 1 は，(3)の課題で提出された「ビジネスメールにおける留意事項」のランキングのポイント制による集計である．1 番目に報告してきた留意事項には 3 ポイント，2 番目の留意事項は 2 ポイント，3 番目の留意事項には 1 ポイントを付与した．なお，同じランキングに複数の項目を記述してきた項目には，それぞれの項目に対して相当するポイントを付与し，4 番目以降の留意事項は集計結果に反映させていない．

コンピュータリテラシー科目において採用されるテキストでは(たとえば[1])，個別の「メールに関するマナー」は，それぞれ同じ程度の重要度で「リスティング」されることが多い．しかし図 1 に示したように，「メールに関するマナー」についての大学生の認識には項目間で差異があり，調査した範囲においては「ロングテール」様の分布を示した．

5. おわりに

本研究では，コンピュータリテラシー科目の個別ソフトウェアの学習において，中核的な教材として学習項目「メールに関するマナー」を一貫して活用し，「全員参加型」の特性を有する教授法を開発した．また，本実践の過程で受講生に「メールに関するマナー」について意識調査を行ったところ，「メールに関するマナー」についての大学生の認識には項目間で差異があり，調査した範囲においては「ロングテール」様の分布を示すことが判明した．

参考文献

[1]奥村晴彦，三重大学学術情報ポータルセンター：基礎からわかる情報リテラシー，技術評論社（2007）．

Copyright ©2012 Information Processing Society of Japan.
All Rights Reserved.